



# 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2025年  
No.11  
事例3

疑義照会・処方医への情報提供

## 禁忌



### 事例

#### 【事例の詳細】

薬剤師が医師の訪問診療に同行した際、90歳代の患者の家族から、带状疱疹ワクチンの患者への接種希望があった。医師が生ワクチンの乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」と組換えワクチンのシングリックス筋注用について患者の家族に説明を行い、どちらを選択するか希望を尋ねた。薬剤師は、患者が関節リウマチの治療のためプレドニゾロンを長期間内服していることを把握していたため、生ワクチンは患者に禁忌であることを医師に情報提供した。その結果、患者にシングリックス筋注用を接種することになった。

#### 【推定される要因】

医師は、患者がプレドニゾロンを服用していることを失念していたと思われる。

#### 【薬局での取り組み】

薬局内で今回の事例を共有した。患者がワクチン接種を受けるという情報を入手した際は、接種するワクチンを聴取し、懸念事項がある場合は医師に情報提供する。



### その他の情報

#### 乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」の添付文書 2025年4月改訂（第5版）（一部抜粋）

2.接種不適当者（予防接種を受けることが適当でない者）

<带状疱疹の予防>

2.6 明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する者及び免疫抑制をきたす治療を受けている者

10.相互作用

10.1 併用禁忌（併用しないこと）

<带状疱疹の予防>

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
副腎皮質ステロイド剤 プレドニゾロン等 (注射剤、経口剤)	播種性の症状を呈するなどワクチンウイルスの感染を増強させるおそれがある。	免疫機能抑制下にあるため、ワクチンウイルスの感染を増強あるいは持続させる可能性がある。



### 事例のポイント

- 本事例は、訪問診療に同行した薬剤師が医師に情報提供を行い、禁忌となるワクチンの接種を防止した好事例である。在宅医療の現場では、薬剤などの情報がすぐに入手しにくい環境下にあることから、薬剤師が同行し、医師に情報提供を行うことは有用である。
- 免疫不全・免疫機能低下者に生ワクチンを接種するとワクチンウイルスの感染を増強あるいは持続させる可能性があるため、免疫抑制作用のある副腎皮質ステロイド薬や抗リウマチ薬、抗悪性腫瘍薬による治療を受けている患者は、生ワクチンの接種が受けられないことに注意する必要がある。
- 2025年度から予防接種法が一部改正され、65歳の者などが带状疱疹ワクチンの定期接種の対象となった<sup>\*</sup>。定期接種対象の年齢に近い患者が免疫抑制作用のある薬剤を服用している場合は、带状疱疹ワクチンを接種する際の注意点を予め説明し、服用している薬剤を医師に伝えることの重要性について理解を促しておくことが望ましい。

<sup>\*</sup>厚生労働省 予防接種・ワクチン情報 带状疱疹ワクチン



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）  
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.c.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。